

**センター試験304名受験 ～3年生～**

1月13日(土)、14日(日)の2日間実施された大学入試センター試験を、本校3年生の304名が受験しました。今年度は数年ぶりに鹿児島大学医学部(桜ヶ丘キャンパス)での受験となりました。前日の下見では小雪がちらつくような寒波の中ではありませんでしたが、体調不良等のトラブルもなく、全員が無事に試験を終えることができました。

1月15日(月)は、各教室で自己採点を行い、その後学年集会において今後の出願に向けての流れや二次対策について説明がなされました。センター試験は2日間で終了すると思いがちですが、自己採点をもとに出願先を決定するので、センター試験翌日の自己採点は非常に重要です。1・2年生は、自己採点まで含めた3日間がセンター試験であると覚えておいてほしいと思います。

1月19日(金)には、第3回進路検討会が行われました。検討会では、自己採点と各予備校の判定、さらに生徒の日頃の学習への取り組みや今後の伸びに対する教科担任の見解をもとに、出願先と合格の可能性について話し合われます。1人1人の検討において議論は白熱し、時間をかけて3年生全員の検討がなされました。

1月20日(土)、21日(日)の2日間は、3年生の各クラスにおいて出願先を決定するための三者面談が行われました。進路検討会でなされた議論をもとに、生徒・保護者・担任が知恵を出し合い、最後は生徒本人が覚悟と決意を持って出願先を確定させていました。

53期生にとって、これまで経験したことのないような怒濤の一週間であったことと思います。人生の中でも、これほど大きな選択を迫られることはそう何度もありません。だからこそ、ここで自分が下した最終決断に誇りを持ち、その実現のために、この後の二次試験に向けて全力で走り抜けて欲しいと思います。

国公立大学 二次対策始まる

1月16日(火)から、3年生は二次対策の特別授業が始まりました。自分が二次試験で必要な教科の授業のみを受けるので、勉強の負担が減るように思われるかもしれませんが、二次試験の問題はそうたやすく解けるものではなく、思うように解き進められないストレスをこれまで以上に大きく感じている人も多いためです。

二次試験では、センター試験以上に深い理解と思考力が問われます。単純に知識だけで乗り切ることが不可能です。ただ、二次対策の授業や演習に必死に食らいついていく中で、必ずそれまで積み上げてきた経験が頭の中で結びついてくる瞬間がきます。以前に考えた経験をもとに、初めて見る問題に対しても正しい方向性を見つけられるようになるのです。その手応えをつかむ瞬間が必ずくることを信じて、今は目の前の1つ1つの問題に真摯に向き合ってほしいと思います。

多くの先輩たちが、この二次対策の中で学力が伸びる経験をしたと言っています。センター試験はあくまでも通過点、ここからが本当の勝負です。そして本当に勉強が面白くなるのもここからです。最後まであきらめず粘り強く努力を続けることが大事です。3年生の健闘を祈ります。

センター試験まであと1年、あと2年

2年生はセンター試験まであと1年、1年生はあと2年となりました。3年生がセンター試験を終えて口にするのは、「この1年は本当に早かった」ということです。特に、センター試験まであと100日という日から本番までは、「あっという間に過ぎた」と言っています。1、2年生にも、その時期は必ずやってきます。今からしっかり準備をしておくことが大切です。

先日、1、2年生ともに進研模試を受けました。その問題を解き直す中で、自分の弱点を把握し、次の模試までの半年間で伸ばすべき科目や分野の確認をする必要があります。模擬試験は、進路目標を達成するための大切なツールですが、その活用度には個人差が大きいのが現状です。1年後、2年後の今の時期に振り返って後悔することのないように、1日1日を大事にしてほしいと思います。

平成 30 年が始まり 1 か月が経ちます。2 年生への進級に向けて準備をする時期となりました。56 期生という後輩も迎えなければなりません。部活動や学業、学校生活において後輩の模範となるよう、身だしなみを整えたり、勉強や部活動に一生懸命取り組むことで自分自身を磨いていきましょう。

大学入試センター終わる

去る 1 月 13 日・14 日に、鹿児島大学(桜ヶ丘キャンパス)において 53 期生が大学入試センター試験を受験しました。国公立大学だけでなく、私立大学や短期大学の多くがこの大学入試センター試験を利用しています。3 年生はいよいよ入試本番となりました。

右の表は、今年のセンター試験の時間割です。当日は 8:30 に集合して夕方 18:10 過ぎまでの長丁場の日程となっています。ここに体調のピークを合わせていくということが大きなポイントとなってきます。55 期生が受験する 2 年後のセンター試験は、現在の形式の試験としては最後になり、翌年から「大学入学共通テスト」に切り替わります。

期日	出題教科	出題科目	試験時間
1/13(土)	地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」	2 科目受験 9:30～11:40
		「地理 B」「現代社会」	1 科目受験 10:40～11:40
	国語	「国語」	13:00～14:20
	外国語	〈筆記〉	15:10～16:30
〈リスニング〉		17:10～18:10	
1/14(日)	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30～10:30
	数学①	「数学 I」 「数学 I・数学 A」	11:20～12:20
	数学②	「数学 II」 「数学 II・数学 B」	13:40～14:40
	理科②	「物理」「化学」「生物」 「地学」	2 科目受験 15:30～17:40
1 科目受験 16:40～17:40			

この「大学入学共通テスト」では、「思考力・判断力・表現力」に重点を置いた問題が出題されるようになっています。ただ単に解き方や暗記項目を「覚える」だけの勉強をしている人は対応できなくなります。この傾向は、今年度のセンター試験にも既にみられ始めています。数学や化学などの理系科目においても、問いを的確に読みこなしていかなければ、答えを導き出せないものがありました。これからは、文法や公式、出題文の前後のつながり等を利用しながら、なぜそのような解答になるかを考える、文章を読む力を身につける学習をしていきましょう。

試験問題に挑戦してみましたか？

ところで、新聞やインターネットで公開されている、今年の大学入試センター試験の問題を解いてみましたか？

数学 I や化学基礎等は学習した内容の全部または大部分が終わっています。その他の科目についてもチャレンジすることはできます。時間を作って挑戦してみましょう。今の自分にどれくらいの実力があるかが分かります。2 年後には皆さんが受験する試験です。本番の試験に向けて学力をつけていきましょう。

後輩を迎えるにあたって

あと 2 ヶ月あまりで 56 期生が入学してきます。先輩として模範を示さなければなりません。髪型や服装、挨拶や日常の行動、勉強や部活動に対する姿勢は後輩に誇れるものでしょうか。自分自身の行動を振り返り、もし改善が必要であればすぐに改めていきましょう。「変わる」ことができれば、現状が改善し、いい方向に進むことでしょう。ほんの少しだけでも緊張感を高め自分自身を戒めることで、4 月からの高校生活がより充実したものになるようにしてください。

- (1) どんよりとした年末に、今年も皆さんから若きパワーを貰い気が引き締まる思いでした。礼儀正しく、頼もしい後輩の皆さんでした。社内で支援・協力頂いた方々からも同様の意見で、また次回も是非協力させてくれとのありがたい言葉を頂きました。会社外でも、たまたま山手線で見かけて声を掛けられたOGの方がいたようで、先輩方の心にも確実に『爽やかな風』が吹き抜けました。学生さんには楽しい修学旅行だと思います。ただ、その周りの先輩方、会社関係者においても、実は楽しいひと時だったということをお伝えしておきます。感謝です。
- (2) 短い時間ではありましたが、遠路はるばる来社された後輩の皆様とお話ができ、大変懐かしく、楽しかったです。担当者だけでなく、若手の社員たちにとっても自身の仕事を振り返る良いきっかけとなり、キラキラと輝いている生徒さんたちとお話して元気をもらいました。これからも珊瑚樹の会*の活動等で、在校生の皆様へ尽力できればと考えております。
珊瑚樹の会*鹿児島中央高校関東同窓会の名称（HPに国内体験学習の様子が近々アップされるはずです）
- (3) 受け入れのための準備など、大変なこともありましたが、皆さんの笑顔を見て、また、今回の感想・お礼文を読ませていただき、そうした苦勞が吹き飛びました。生徒の皆さんはとても実直・素直で、説明や案内でもやりがいを覚えました。また来年度もご訪問されることを心からお待ちしております。OBの1人として、全力でお迎えしたいと思います。
- (4) 2時間の研修でしたが生徒の皆さんは真剣に研修を受けておりました。皆さん真面目で好感が持てました。5年後は是非入社されることを期待しております（総人事部談）…とのことでした。来年はいよいよ明治維新150年、薩摩の年になると思われます。日本を背負う良き人材が中央高校から誕生されることを期待しております。

いよいよ受験生として1年後を見据えた新しい生活をスタートさせた君たちにとっては、もう、遠い昔の記憶でしょうか？ 昨年末の国内体験学習で君たちを受け入れて下さった企業からのメール（抜粋）です。業種こそ異なるものの、君たちが訪問した、地元を離れて頑張られている19の企業の先輩たちの、後輩や母校に対する熱い思いに触れて、君たちの中の何かが変化したのであれば…という気持ちです。

先輩からのメッセージ（4）にもあるように、今年は明治150年。鹿児島に注目が集まる年です。54期生のみなさんが、こういう節目の年に「受験」という大きな舞台を迎えられるのも、不思議な巡り合わせなのかもしれません。

平成29年12月30日（土）南日本新聞「南風録」より

おとこ気のある俳優といえば、鹿屋市出身の哀川翔さんもその一人だろう。硬派な役が板に付く。私生活でも言い訳を良しとしない、真っすぐな性分らしい。（中略）薩摩っほには「議を言うな」という気風がある。解釈は諸説あるが、郷中教育の名残とあれば「理屈をこねる前に仕事せよ」がしっくりくる。（中略）哀川さんの語録に「壁は乗り越えなくていい。バンバンぶつかればそのうち壊れる」がある。まさに「泣こよかひっ飛ば」の心意気だ。来る明治維新150年、先達の気風に学びたい。

君たちが受験生として過ごすこれからの1年間の高校生活ほど、中身の濃いものはないと思います。勉強すればするほど、自分の足りない部分が見えてきます。やっても、やっても終わることのない受験勉強の中で、厳しい現実が幾度となく突きつけられます。スランプも経験します。自分自身で決めた以上は自分自身とも闘わなくてはならないことは分かっている、心が折れそうになります。しかし、こうした経験を経るからこそ、君たちは成長し、社会に貢献できる人材へと大きく変わっていくのだと思います。君たちの対応をして下さった先輩方、企業の方々には君たちの目にも魅力的に写ったはず。楽しいことばかりではなく、きついことも乗り越えたからこそその輝きだと思います。

苦しいときには、これまで多くの時間を共有してきた300余名の仲間がきっと支えてくれるはず。応援して下さる保護者もいます。先生方も精一杯応援します。こうした機会を前向きにとらえて、楽しむことができれば、最高の結果がご褒美としてもらえるはず。君たちの「年頭所感」に記したそれぞれの目標に向けて、少しずつでも前進していってくれることを期待します。長校長先生の話にもよく出てくる「風は鹿児島中央高校から…」。君たち54期生がそのきっかけを創り出してくれることを強く望みます。



大学入試センター試験が終了、お疲れ様でした。次は2次試験や私大に向けて！

1月13日（土）14日（日）。大学入試センター試験が鹿児島大学医・歯学部（桜丘）でありました。前日の下見時は小雪も舞うほどの厳しい寒さで、凍結も心配されましたが、受験予定の304名全員が無事に受験を終えることができました。

朝8：00過ぎに集合して、18：00頃まで緊張が2日間続く日程でしたが、全員が最後まで真剣に取り組んでいたと思います。長校長先生を始め、立石教頭先生や桑原教頭先生、3学年だけでなく他学年も含めて、多くの先生方が激励に駆けつけて下さいました。心から感謝したいです。

受験場が暑かったり寒かったり、周囲の受験生が気になったり、体調がすぐれなかったりなど、様々な予期せぬことも含めて、これが「受験」というのもです。恐らく、大学入試センター試験という試練を乗り越えて、赤組メンバーが大きく成長したのではないのでしょうか。それを感じた2日間でした。

大学受験は「1点勝負」の厳しい世界です。「入試に善戦」はありません。

高校時代、1学年上に伝説の生徒会長・T先輩がおられました。自分（＝廣瀬）は、大学入試共通1次試験の世代ですが、T先輩はその第1回共通1次試験を受験した方でした。C・D判定からの一発逆転を狙って九州大学を受験しましたが、残念ながら結果は不合格。T先輩は浪人することになりました。

3月中旬、予備校への入学手続きをしていたT先輩に、九州大学入試係から補欠合格の知らせが入りました。半信半疑で福岡へ飛び、合格通知を手にした時に初めて、T先輩は合格を実感したと話して下さいました。入試係の方が「君は1点で落ちていたんだよ。君と同じように1点で不合格になった受験生が20名ほどいたんだ。4時間ほど会議を開いて、君の合格が決定したんだ。補欠合格だからといって、何も引け目を感じる必要はないよ。」と言って下さったそうです。その時初めて、T先輩は担任のN先生（数学）が「入試には善戦はない。1点でも落ちればそれまでだ。」いつも言っていたことを思い出し、その言葉の本当の意味を理解したと、自分達（＝後輩）に話して下さいました。

高校時代、自分（＝廣瀬）は数学が全くできず苦手科目だったのですが、3年次に担当して下さいましたN先生の授業は大好きでした。N先生がよくT先輩のことを例に挙げて、「入試に善戦は無いんだ。お前達は、入試での1点の重みが、本当に分かっていない。」と指導して下さいましたことを、今でも覚えています。

本当の勝負を最後に決めるのは「人間力」です。奇跡を起こせ！頑張れ。ミラクル赤組！

数年前、同期生の同窓会で数十年振りにN先生とお会いした時、自分（＝廣瀬）がT先輩のことやN先生の言葉について話をすると、N先生は嬉しそうに「“入試に善戦はない”は、君の言葉として使っているから、鹿児島中央生を君の後輩達を、元気づけてやれ。」と言って下さいました。

最終進路検討会では、D、Eなど厳しい判定の生徒もいました。しかし、「地道にコツコツ努力している。」とか「よく清掃に取り組んでいるとか。」とか「大学入試センター試験で思うような結果が出ず、担任や教科担任に申し訳ないと言っていた。」とか「大学入試センター試験終了直後、先生方が2日間ずっと待機していたことに感謝していた。」とか「例年以上に、2次試験対策の取り組みが良い。」など、赤組メンバーのまとまりや雰囲気良さが伝わるコメントも頂きました。

年末年始の取り組みや大学入試センター試験の雰囲気、特別授業開始後の真摯な態度など、赤組の学年力を感じています。受験の神様が力を貸して下さい、D・E判定からの逆転や中・後期まで粘って合格、補欠・追加合格など、赤組メンバーは何かやってくれそうな雰囲気があります。試合でも受験でも、本当の勝負を決めるのは、体力や気力そして最後は「人間力」だと思います（廣瀬説）。数字やパソコンが示したD・E判定に負けず、**奇跡を起こせ！頑張れ。ミラクル赤組！**

（文責・廣瀬）